

年月日	26	03	11	ページ	10	NO.	
-----	----	----	----	-----	----	-----	--

高炉向け純銅製品

戸畑製作所、輸出を拡大

3Dプリンター導入計画

銅铸件やマグネシウム合金を製造する戸畑製作所（北九州市小倉南区、松本敏治社長）は、海外向け販売の拡大を目指す。純銅製品の主要な向け先である高炉メーカーが国内での生産規模を縮小する中、海外の日系高炉やローカル企業向けに販売を伸ばしたい考え。

形状の铸件を製造できるようにするため、砂型用3Dプリンターの導入も計画している。同社は、高炉で熱風を吹き込む羽口や、炉体・鉄皮の冷却に使われる銅スチープなどの銅铸件や溶接製缶を生産。高炉用の純銅製品では国内トップシェアを誇る。電炉や銅製錬

炉向けの純銅製品も手掛ける。純銅製品の販売先は現状ほとんどが国内。主力の高炉向けは、国内鉄鋼市場の電炉シフトにより、内需が今後減少していくことも予想される。

一方、日系高炉メーカーはインドや米国内などで海外での事業展開に力を入れる。日系資本の海外高炉では、国内での採用実績が豊富な同社の純銅製品が使われる可能性がある。日系高炉で新規受注も得られ始めており、松本社長は「今後は輸出を増やしていきたい」と語る。

これまで海外の高炉からスポットでの受注はあったが、定期的な取引にはなかなかつながらなかった。日系高炉向けに継続的な受注が得られるようになれば、ローカル資本の企業などに対しても日常的なアプローチがしやすくなるという。

また高炉の還元方式の変更などに伴い、将来的には羽口の構造が複雑化することが見込まれる。複雑な形状の铸件を製造するためには、精密な砂型が不可欠だ。

通常は木型を使って砂型を製造するが、設計の自由度を高めるため、砂型専用の3Dプリンターを導入することを計画している。松本社長は「羽口の全体の数量は減っても、付加価値が高い製品として育てていけるのではないかと考えている」と話す。

3Dプリンターを選定するための試作評価などをすでに始めており、2026年度上期には投資決定する予定。27年度までの稼働開始を想定する。砂型3Dプリンターは銅铸件だけでなく、マグネシウム铸件などにも活用できる。



铸造工場